

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291100051		
法人名	株式会社 メディカルコーポレーション		
事業所名	グループホーム 岡宮の憩(駿河、富士)		
所在地	静岡県沼津市岡宮753-2		
自己評価作成日	平成24年12月28日	評価結果市町村受理日	平成25年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kami=true&ligyosyoCd=2291100051-008&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階
訪問調査日	平成25年1月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の状態であっても、家庭的な雰囲気の中で、共同生活を通して個々の意思・ライフスタイルを尊重しながら自立支援に向けた認知症の介護における有資格者が一人ひとりに適した支援を心掛けております。場所は沼津インターの近くにあり、駿河湾を背に周囲は小鳥のさえずりが聞こえる緑豊かな山々に囲まれ、天気の良い日には富士山を眺望できる地域に根差した明るく開放的な施設です。またベランダのテラスでは、丹精込めて育てた花々や家庭菜園で季節の野菜を栽培しており、ミニトマト・キュウリ・さつまいも・ゴーヤ等を入居者様と一緒に収穫し、自ら育てる喜びや献立メニューに取り入れ新鮮な採れたての美味しさを味わって頂いております。週6日のレク季節の行事では担当者が自分の持ち味を最大限に生かし新たな試みを取り入れたりと飽きない工夫を凝らしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

駿河湾側を「駿河」、富士山が見える方を「富士」と名付けた2つのユニットで構成されています。昨年4月に新たに管理者を迎え、玄関入口からすでに空気感が昨年と違って、職員も気持ちを新たに取り組んでいる様子が伝わります。管理者としては新人ですが、現場経験も長く、またケアマネジャーでもあり、着任後すみやかに事業所の課題解決に取り組んでいます。特に、特定施設・老健と新たに提携を結び、有事における利用者職員双方の安心を獲得した努力には頭が下がります。その姿に影響されてか、職員の自発性も高まっていて、安定しない利用者の「心身状態を時系列で電子上で帯グラフ化する、ことへ見事に昇華させています。この中川方式(中川という職員が考案した)は、投薬の効能把握がしやすいと医師からも評価されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、「介護の三大理念」と「介護の心得5カ条」を申し送り時に唱和し、常に念頭に置きその日の業務に就く様にしている。	「介護の三大理念」「介護の心得5カ条」の唱和で、毎朝気持ちを新たに取り組んでいます。職員間のラポールが感じられる朝礼の風景を視認し、また場面毎のメリハリのある挨拶から、業務への取り組み姿勢の高さが覗えました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の住民の方と積極的に地域交流を図り、昔ながらの持ちつ持たれつな馴染みある隣組のような関係を少しずつ築つつある。	自治会に加入し、地域の清掃活動や催しに管理者が積極的に参加しています。職員の親戚が生徒として通う縁から沼津東高校吹奏楽部が訪れてクリスマスのミニコンサートを開き、避難地でもある高校と今後の交流が期待されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催して地域の方の意見を聞いて理解して頂ける様に努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、入居者様にも参加して頂き、地域の方々に自ら積極的に情報開示し、地域に根差した明るく開放的な施設を目指している。入居者様より要望・意見や注意すべき事を聞き、全体会議等で話し合い向上へと繋げている。	包括職員、家族、利用者などの毎回参加を得て、奇数月に定期開催しています。訪問マッサージやシルバー人材センターを活用している日頃の努力を評価してもらうなど、事業所のモチベーションを高める場となっています。	事業所建物の持ち主が隣近所とのことで参加を得ていますが、家族と縁の薄い利用者も多くいることから、訪問のボランティアなど地域参加者を拡げること期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護者の入居が多い為、社会福祉課等、協力体制が出来ている。また月1回長寿福祉課より介護相談員が来訪され直に入居者と話され普段聞けない本音の意見等が汲み取られる為、双方で情報共有しより良い生活の反映に努めている。	運営推進会議の案内を前回の議事録と一緒に送付するほか、頻りに連絡をとりあう関係にあります。介護相談員も2名と増え、手厚い支援を受けています。地域包括主導の北部グループホーム連絡協議会2ヶ月に1回、市主催のケアマネ連絡協議会にも積極的に参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	交通量の多い立地条件の為、入居者様の安全を考え、玄関は施錠しているが、日々の業務の中で拘束については身体拘束ゼロを常に念頭に置き、迅速に代替策を講じ対応している。職員の全体会議の中で拘束委員会を開き話しあっている。	表の道路は交通量が多いため、安全のため玄関を施錠しています。コンプライアンス推進委員会議事録には、虐待防止、身体拘束廃止の有無等の欄を設け、管理者と委員とで協議する体制を整えています。ストレスがたまるとうきやすいため、管理者は勤務表作成の際に十分配慮しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者研修の中で、防止の実践を勉強し職員も常に念頭に置き業務につく様に指導している。又、「介護の心得5カ条」は、虐待防止の為のもので、毎朝申し送り時に唱和している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コンプライアンス委員会を設け、半年に1度本部にて、会議を開催しその中で、法令遵守等、話合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、契約書にて説明を行い、同意を得ている。又、改定時には、家族会を開き御家族出席の元、本部より役員が赴き、説明会を開催している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会を開催したり、面会時には家族の要望を伺い、毎月担当者より、1ヶ月の様子や、ホームからのお願いを記入した「家族への手紙(写真入り)」を送付し、個々に見合った良いケアを目標に日々努力をしている。	平成24年3月から法人本部でブログを開設しており、管理者はデジカメを手にとれる場所に置き、職員にも参画を促しています。写真ですみやかに伝えることで説得力も高まり、家族の事業所への関わりにも変化が感じられるとのことです。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や、ユニットミーティングの中で、職員より意見や提案を聞き、本部の管理者会議で挙げて運営に反映させている。	コンプライアンス、感染、レクなどの委員会を設けていて、職員の自主性を促しています。 “ひやり、にあった罪悪感を払しょくしたところ、職員の気づきが高まり、「水滴もすべる要因…」と意識が変化し、ひやり・ハットの書面も1ヶ月に1枚程度から多い時は16枚と向上しています	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	フロア会議及び全体会議等を通じ、更には①報告②連絡③相談の徹底を図り、職員間の意思疎通を図り安心出来る介護サービスの向上を目指す。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に外からの知識を修得させ、全体会議にて研修参加の報告として発表する場を作り、更なる向上を目指し、上の資格取得に積極的に努力の徹底を図ります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業他社を見学する事に依り、学び取り入れる事項は、積極的に勉強し、当施設のスキルを向上させ『喜んで・安心』していただける介護サービスに徹します。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との話の中で要望・本音を伺いグループホームで、安心した生活が出来る様にしていく。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご面会時・電話にて家族の要望などに耳を傾けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の状況を見ながら、家族と話し合い、今何が必要なのかを探り、対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のペースに合わせ、一緒に生活している家族のような関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に現状の報告をしながら、共に、ご本人様を支えていく関係を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との関係が途切れないよう定期的な面会を呼び掛け、いつでも連絡が取れる様にしている。	将棋が趣味の利用者に、やはり趣味とする職員が対戦相手となっています。法人本部のブログ、管理者の地域活動や関係機関への積極的参加などが功を奏し、知り合いの訪問が増えています。外出については家族の協力を得て、その都度実施しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様に時々座席を変えて調和を図り、皆で支え合える様に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、一年後に安否確認をし、近況を聞ける様にしている。ご本人様より連絡が来る事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族と話し合いながら、本人の希望を最優先している。	居室担当が毎月家族へ自筆で日頃の様子を伝えたり、部屋の清掃をおこなっていて、マンツーマンでの相互理解が深まっています。また、看介護記録ファイルには、すべての職員が気づきを記録し、情報の共有化を図っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、来訪時に家族からの、希望や話を聞く。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分で、出来る範囲内の事は見守りながら行って頂き無理の無い程度のADLの向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に適した良い介護計画作成の為、居室担当を配置し、ケアカンファレンスに本人を交え、個々の意向を十分に反映出来る様にケアについてチームで密にディスカッションを行いながら作成している。	計画作成担当は居室担当から経過観察の報告を得るほか、カンファレンスで全職員の意見を反映させて計画を作成しています。カンファレンスは活発な討論のため時間超過することがあるほどです。現在はユニットごとですが、一体感を目指し職員をシャッフルするなど改良を加えています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	看介記録(個別)・日報に、体温・血圧・排便・水分量を記録し経過観察を行い体調の変化が解りやすい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族から孤立したりする入居者様に対し、本人の気持ち・家族の立場を調整・納得出来る方向を一緒に考えていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア・相談員の訪問を受け、楽しく話をされる事がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院への受診(基本的)家族に対応して頂けるように呼び掛けている。医師・看護師の指示は、オンコールでいつでも聞ける対応が出来ている。月2回ホームDrの往診がある。週1回は、看護師が来訪している。	受診は基本的に家族にお願いしていますが、無理な場合は職員が対応しています。月2回医師、週1回看護師の訪問があり、医療加算をとっています。協力医療機関との契約終了を機にオンコール対応が確立している医院を協力医に迎え、また提携施設も老健と有料の2つを加えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、看護師による訪問がある為、何でも相談出来る様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関があり、医療連携室のケースワーカーとの情報交換はできている。今後の利用者の重度化に備え、提携施設を組み連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の方に「重度化した場合における対応にかかる指針」についての同意を入居時に頂いている。	「重度化した場合における対応にかかる指針」を設けており、また協力医の支援も得られるとのことで、事業所も心強い状況にあります。沼津市立病院で隔月開催の上級救命救急士講習に職員が順次参加していて、利用者の急変対応にも繋がり実践に役立っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議等で、話し合いAEDを設置してある。全職員が順次救命救急士の講習を受け、利用者の急変時や事故発生時に備えられるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1度、避難訓練を行っている。	毎月避難訓練をおこなっていて、本年参加の消防署職員からは「毎月の訓練の報告書をあげてくれたらありがたい」「想定も替えたら…」とのアドバイスをもらっています。地域の訓練には参加していますが、地域から事業所の訓練への参加は未だありません。	上級救命救急士講習を修了した職員が増えていることもあり、地域に向けたAEDや家庭内救急対応の講習の開催も期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格・プライバシーを尊重し、声掛け・介助の仕方・態度について職員間で確認し話し合いながら最適な対応が図れる様に支援を行っている。	法人本部から3ヶ月に1回マナー講師が訪問して、また役職者は毎月本部の接遇研修に参加しています。マナー講師はカウンセラーでもあり、職員のメンタルヘルスケアも同時におこなわれていて、関わりのなかで職員の倫理観が養われていることが覗えます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が、今何をしたいのかを聞きながら、ご本人様が自己決定できる様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にしながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の好みを聞き、家族の協力を得ながら、その人らしいおしゃれが出来る様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事等では、季節感を表し、無理せず自然な生活習慣の中で個々に出来る事を職員と行い、一緒に食事もしている。	業者から食材が週2日届いています。メニューは法人本部の給食事業部から毎月献立表が送られ、HPで毎日ディスプレイ写真が掲示され、職員は毎朝確認しています。テーブルを拭いたり、椅子を元に戻すなど、できることを一緒におこなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事の摂取量を常に記録し、その方の状態に合わせた、食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・食後には、声掛けや見守りにて、口腔ケアを行い、義歯使用の方は、ポリドント使用しながら、口腔内を清潔にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状況に応じて、声掛け・誘導・見守り・介助を行い、自立に向けた支援を行っている。	トイレには入出の表札をかけて、判断能力が低下してもトイレを認識できるように工夫しています。その人のしたいようにしてもらうことを旨としていて、汚してしまう利用者についても汚れは職員が片付けばよいとの考えで、無理を強いらないようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体を動かして頂く様に声を掛けたり、個々に応じた予防が出来る様に、話し合いながら取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調等に注意しながら、入浴の支援を行っている。	入浴は週2回、曜日を決めておこなっています。インフルエンザ流行時や利用者の希望により入浴しなかった場合は、清拭などの代替サービスで清潔保持に努めています。適材適所を慣行とのことで、脱衣所は整理好きな職員の手により5Sが行き届いていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握し、タイミング良く眠れる様に、支援している。個々の状況に応じて安眠を妨げないように時間差で起床対応する事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬表の設置・薬の説明書もファイルしてある。協力医療機関によるDr往診後に薬の増減により変更した際は、すぐにデータ修正し最新版に置き替え適切な対応を図れるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の出来る事・好きな事を探りながら、日々の生活の中で、気分転換をして頂ける様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族へ外出の依頼を常に行い、外出できる様に支援している。	天気が良ければ表の小道で体操をしたり、屋内ではレクやモップがけなどで機能訓練につながるよう工夫しています。家族に外食や外泊をお願いしていて、職員からも対応方法などを伝え、安全を図っています。テラスを改修し、歩行訓練も兼ねることが出来る外周コースを本年中に増設予定です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の能力に応じて、職員や家族が不足分をフォローしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族・ご本人様より、依頼があった際は、プライバシーを配慮し他者に聞えない場所にて、電話をして頂ける様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が制作した物を中心に飾っている。また岡宮だより・レク行事の写真を掲示し、自然と会話が弾み居心地の良いリラックスした空間で過ごせるような工夫をしている。	毎年、岡宮の文化展に出品するという干支の貼り絵は力作で、利用者と職員の努力が壁を飾っています。各ユニットの共用空間に1台ずつ加湿器がありますが、足りない場合は濡れタオルを置くなどの工夫をし、快適な空間づくりに努めていることが観えました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同志が、気兼ねせずリラックスした雰囲気の中でいつでも雑談できる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居宅で使い慣れた愛着の有るものや好みのものを使用していた頂き、ご本人様が、居心地よく安心して生活できるようにしている。	ふすまを連想させる和紙仕立ての引き戸と木製の表札が印象的です。居室担当の日頃の目配りと、週1回のシーツ交換、2日に1度の居室清掃により、清潔に整えられています。ディズニーのキャラクターが好きとの利用者は壁にポスターを貼っていて楽しげでした。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合った身近で出来る事を探り、声掛け・見守りをしながら、無理せずに行き届けるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、「介護の三大理念」と「介護の心得5カ条」を申し送り時に唱和し、常に念頭に置きその日の業務に就く様になっている。	「介護の三大理念」「介護の心得5カ条」の唱和で、毎朝気持ちを新たに取り組んでいます。職員間のラポールが感じられる朝礼の風景を視認し、また場面毎のメリハリのある挨拶から、業務への取り組み姿勢の高さが窺えました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の住民の方と積極的に地域交流を図り、昔ながらの持ちつ持たれつな馴染みある隣組のような関係を少しずつ築つつある。	自治会に加入し、地域の清掃活動や催しに管理者が積極的に参加しています。職員の親戚が生徒として通うご縁から沼津東高校吹奏楽部が訪れてクリスマスのミニコンサートを開き、避難地でもある高校と今後の交流が期待されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催して地域の方の意見を聞いて理解して頂ける様に努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、入居者様にも参加して頂き、地域の方々に自ら積極的に情報開示し、地域に根差した明るく開放的な施設を目指している。入居者様より要望・意見や注意すべき事を聞き、全体会議等で話し合い向上へと繋げている。	包括職員、家族、利用者などの毎回参加を得て、奇数月に定期開催しています。訪問マッサージやシルバー人材センターを活用している日頃の努力を評価してもらうなど、事業所のモチベーションを高める場となっています。	事業所建物の持ち主が隣近所とのことで参加を得ていますが、家族と縁の薄い利用者も多くいることから、訪問のボランティアなど地域参加者を拡げること期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護者の入居が多い為、社会福祉課等、協力体制が出来ている。また月1回長寿福祉課より介護相談員が来訪され直に入居者と話され普段聞けない本音の意見等が汲み取られる為、双方で情報共有しより良い生活の反映に努めている。	運営推進会議の案内を前回の議事録と一緒に送付するほか、頻りに連絡をとりあう関係にあります。介護相談員も2名と増え、手厚い支援を受けています。地域包括主導の北部グループホーム連絡協議会2ヶ月に1回、市主催のケアマネ連絡協議会にも積極的に参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	交通量の多い立地条件の為、入居者様の安全を考え、玄関は施錠しているが、日々の業務の中で拘束については身体拘束ゼロを常に念頭に置き、迅速に代替策を講じて対応している。職員の全体会議の中で拘束委員会を開き話しあっている。	表の道路は交通量が多いため、安全のため玄関を施錠しています。コンプライアンス推進委員会議事録には、虐待防止、身体拘束廃止の有無等の欄を設け、管理者と委員とで協議する体制を整えています。ストレスがたまるとうきやすいため、管理者は勤務表作成の際に十分配慮してい	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者研修の中で、防止の実践を勉強し職員も常に念頭に置き業務につく様に指導している。又、「介護の心得5カ条」は、虐待防止の為のもので、毎朝申し送り時に唱和している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コンプライアンス委員会を設け、半年に1度本部にて、会議を開催しその中で、法令遵守等、話合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、契約書にて説明を行い、同意を得ている。又、改定時には、家族会を開き御家族出席の元、本部より役員が赴き、説明会を開催している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会を開催したり、面談時には家族の要望を伺い、毎月担当者より、1ヶ月の様子や、ホームからのお願いを記入した「家族への手紙(写真入り)」を送付し、個々に見合った良いケアを目標に日々努力をしている。	平成24年3月から法人本部でブログを開設しており、管理者はデジカメを手にとれる場所に置き、職員にも参画を促しています。写真ですみやかに伝えることで説得力も高まり、家族の事業所への関わりにも変化が感じられると思います。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や、ユニットミーティングの中で、職員より意見や提案を聞き、本部の管理者会議で挙げて運営に反映させている。	コンプライアンス、感染、レクなどの委員会を設けていて、職員の自主性を促しています。 “ひやり、にあった罪悪感を払しょくしたところ、職員の気づきが高まり、「水滴もすべる要因…」と意識が変化し、ひやり・ハットの書面も1ヶ月に1枚程度から多い時は16枚と向	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	フロア一会議及び全体会議等を通じ、更には①報告②連絡③相談の徹底を図り、職員間の意思疎通を図り安心出来る介護サービスの向上を目指す。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に外からの知識を修得させ、全体会議にて研修参加の報告として発表する場を作り、更なる向上を目指し、上の資格取得に積極的に努力の徹底を図ります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業他社を見学する事に依り、学び取り入れる事項は、積極的に勉強し、当施設のスキルを向上させ『喜んで・安心』していただける介護サービスに徹します。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との話の中で要望・本音等を伺いグループホームで、安心した生活が出来る様にしていく。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご面会時・電話にて家族の要望などに耳を傾けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の状況を見ながら、家族と話し合い、今何が必要なのかを探り、対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のペースに合わせ、一緒に生活している家族のような関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に現状の報告をしながら、共に、ご本人様を支えていく関係を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との関係が途切れないよう定期的な面会を呼び掛け、いつでも連絡が取れる様にしている。	将棋が趣味の利用者に、やはり趣味とする職員が対戦相手となっています。法人本部のブログ、管理者の地域活動や関係機関への積極的参加などが功を奏し、知り合いの訪問が増えています。外出については家族の協力を得て、その都度実施しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様に時々座席を変えて調和を図り、皆で支え合える様に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、一年後位に安否確認をし、近況を聞ける様にしている。ご本人様より連絡が来る事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族と話し合いながら、本人の希望を最優先している。	居室担当が毎月家族へ自筆で日頃の様子を伝えたり、部屋の清掃をおこなっていて、マンツーマンでの相互理解が深まっています。また、看介護記録ファイルには、すべての職員が気づきを記録し、情報の共有化を図っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、来訪時に家族からの、希望や話を聞く。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分で、出来る範囲内の事は見守りながら行って頂き無理の無い程度のADLの向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に適した良い介護計画作成の為、居室担当を配置し、ケアカンファレンスに本人を交え、個々の意向を十分に反映出来る様にケアについてチームで密にディスカッションを行いながら作成している。	計画作成担当は居室担当から経過観察の報告を得るほか、カンファレンスで全職員の意見を反映させて計画を作成しています。カンファレンスは活発な討論のため時間超過することがあるほどです。現在はユニットごとですが、一体感を目指し職員をシャッフルするなど改良を加えています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	看介護記録(個別)・日報に、体温・血圧・排便・水分量を記録し経過観察を行い体調の変化が解りやすい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族から孤立したりする入居者様に対し、本人の気持ち・家族の立場を調整・納得出来る方向を一緒に考えていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア・相談員の訪問を受け、楽しく話をされる事がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院への受診(基本的)家族に対応して頂けるように呼び掛けている。医師・看護師の指示は、オンコールでいつでも聞ける対応が出来ている。月2回ホームDrの往診がある。週1回は、看護師が来訪している。	受診は基本的に家族にお願いしていますが、無理な場合は職員が対応しています。月2回医師、週1回看護師の訪問があり、医療加算をとっています。協力医療機関との契約終了を機にオンコール対応が確立している。病院を協力医に迎え、また提携施設も老健と有料の2つを加えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、看護師による訪問がある為、何でも相談出来る様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関があり、医療連携室のケースワーカーとの情報交換はできている。今後の利用者の重度化に備え、提携施設を組み連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の方に「重度化した場合における対応にかかる指針」についての同意を入居時に頂いている。	「重度化した場合における対応にかかる指針」を設けており、また協力医の支援も得られるとすることで、事業所も心強い状況にあります。沼津市立病院で隔月開催の上級救命救急士講習に職員が順次参加していて、利用者の急変対応にも繋がり実践に役立っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議等で、話し合いAEDを設置してある。全職員が順次救命救急士の講習を受け、利用者の急変時や事故発生時に備えられるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1度、避難訓練を行っている。	毎月避難訓練をおこなっていて、本年参加の消防署職員からは「毎月の訓練の報告書をあげてくれたらありがたい」「想定も替えたら…」とのアドバイスをもらっています。地域の訓練には参加していますが、地域から事業所の訓練への参加は未だありません。	上級救命救急士講習を修了した職員が増えていることもあり、地域に向けたAEDや家庭内救急対応の講習の開催も期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格・プライバシーを尊重し、声掛け・介助の仕方・態度について職員間で確認し話し合いながら最適な対応が図れる様に支援を行っている。	法人本部から3ヶ月に1回マナー講師が訪問して、また役職者は毎月本部の接遇研修に参加しています。マナー講師はカウンセラーでもあり、職員のメンタルヘルスケアも同時におこなわれていて、関わりのなかで職員の倫理観が養われていることが覗えます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が、今何をしたいのかを聞きながら、ご本人様が自己決定できる様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にしながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の好みを聞き、家族の協力を得ながら、その人らしいおしゃれが出来る様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事等では、季節感を表し、無理せず自然な生活習慣の中で個々に出来る事を職員と行い、一緒に食事もしている。	業者から食材が週2日届いています。メニューは法人本部の給食事業部から毎月献立表が送られ、HPで毎日ディスプレイ写真が掲示され、職員は毎朝確認しています。テーブルを拭いたり、椅子を元に戻すなど、できることを一緒におこなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事の摂取量を常に記録し、その方の状態に合わせた、食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・食後には、声掛けや見守りにて、口腔ケアを行い、義歯使用の方は、ポリドント使用しながら、口腔内を清潔にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状況に応じて、声掛け・誘導・見守り・介助を行い、自立に向けた支援を行っている。	トイレには入出の表札をかけて、判断能力が低下してもトイレを認識できるように工夫しています。その人のしたいようにしてもらうことを旨としていて、汚してしまう利用者についても汚れは職員が片付けばよいとの考えで、無理を強いらないようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体を動かして頂く様に声を掛けたり、個々に応じた予防が出来る様に、話し合いながら取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調等に注意しながら、入浴の支援を行っている。	入浴は週2回、曜日を決めておこなっています。インフルエンザ流行時や利用者の希望により入浴しなかった場合は、清拭などの代替サービスで清潔保持に努めています。適材適所を慣行とのことで、脱衣所は整理好きな職員の手により5Sが行き届いていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握し、タイミング良く眠れる様に、支援している。個々の状況に応じて安眠を妨げないように時間差で起床対応する事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬表の設置・薬の説明書もファイルしてある。協力医療機関によるDr往診後に薬の増減により変更した際は、すぐにデータ修正し最新版に置き替え適切な対応を図れるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の出来る事・好きな事を探りながら、日々の生活の中で、気分転換をして頂ける様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族へ外出の依頼を常に行い、外出できる様に支援している。	天気が良ければ表の小道で体操をしたり、屋内ではレクやモップがけなどで機能訓練につながるよう工夫しています。家族に外食や外泊をお願いして、職員からも対応方法などを伝え、安全を図っています。テラスを改修し、歩行訓練も兼ねることが出来る外周コースを本年中に増設予定です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の能力に応じて、職員や家族が不足分をフォローしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族・ご本人様より、依頼があった際は、プライバシーを配慮し他者に聞えない場所にて、電話をして頂ける様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が制作した物を中心に飾っている。また岡宮だより・レク行事の写真を掲示し、自然と会話が弾み居心地の良いリラックスした空間で過ごせるような工夫をしている。	毎年、岡宮の文化展に出品するという干支の貼り絵は力作で、利用者と職員の努力が壁を飾っています。各ユニットの共用空間に1台ずつ加湿器がありますが、足りない場合は濡れタオルを置くなどの工夫をし、快適な空間づくりに努めていることが覗えました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同志が、気兼ねせずリラックスした雰囲気の中でいつでも雑談できる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居宅で使い慣れた愛着の有るものや好みのものを使用していた頂き、ご本人様が、居心地よく安心して生活できるようにしている。	家具を運搬できる和紙は立ての引き戸と木製の表札が印象的です。居室担当の日頃の目配りと、週1回のシーツ交換、2日に1度の居室清掃により、清潔に整えられています。ディズニーのキャラクターが好きとの利用者は壁にポスターを貼っていて楽しげでした。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合った身近で出来る事を探り、声掛け・見守りをしながら、無理せずに行って頂けるようにしている。		